

第1回学校運営協議会を開催しました。



委員の皆様への御挨拶

本年度から、本校も学校運営協議会（コミュニティスクール）を導入することになり、第1回の会を5月19日の午後に行いました。

この制度は、国が定めたものです。目的は、地域とともにある学校づくり。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、保護者や地域住民との情報や課題を共有し、これからの時代を生きる子どもたちのために共通の目標・ビジョンを設定して同じ思いで日々の教育活動を進めていくために設置されたものです。

大津町では、大津中、大津小、護川小などが以前から導入していました。本年度からは、大津町のすべての小中学校での導入となりました。

この協議会の委員は15名です。委員は、地域住民、保護者、校長、教職員、学識経験者などから選出することになっています。本校では、風の子教室や放課後寺子屋、体験活動、学習応援、区長、地域コーディネーターからの代表の方々、保護者からはPTA執行部、学校からは、校長、教頭、教務主任、研究主任（地域連携）。学識経験者として、熊本大学名誉教授の吉田道雄先生に委員になっていただき、全員で15名。

会長には、吉田道雄先生（大津中の学校運営協議会会長でもあります）。副会長に宇都宮PTA会長と内村地域コーディネーターになっていただきました。

第1回の会では、教育委員会からの委嘱や自己紹介を行い、会長、副会長選出の後、校長から、コミュニティスクールの説明、今後の予定、本校の概要、現状と課題、学校運営の基本方針、児童の荷物の持ち帰り、校則の実際についての説明を行い、承認をいただきました。

本校は、地域とのつながりが強く、学校を応援していただく温かい方が多い環境にあります。その良き特徴をさらに生かすためにも、この学校運営協議会で、目標を共有し、意見を出し合い、協働することで、子どもたちの健全育成を行っていきます。また、地域のつながりを深め、地域の教育力さらに強くしていけるように励んでいきます。



校長からの説明

本年度の研究テーマについて

本年度の本校教育目標について、昨年度の成果と課題を明らかにし、全職員で討議を重ねてきました。成果は伸ばしつつ、昨年度、足りなかった所を克服していくために、以下のように研究テーマを決めて、日々実践していくことを全職員で確認しました。

「小さな学校」だからできる教育活動の展開 ～国語科を中心とした 「東小かぜのこ学習モデル」の構築～

仮説1

単元終了時に身に付けたい力を児童と共有し、児童の思考を促すような「東小かぜのこ学習モデル」を具体的に展開することで、児童は意欲的・主体的に学習に取り組むだろう。

研究の視点① 学習過程の工夫

- ア 課題提示の工夫（子どもたちの学習意欲の向上）
- イ 課題に対する自分の考えの記録（書く）
- ウ 協働学習の工夫（発表に対する教師のコーディネート力）と板書の構造化
- エ 自分や他者の伸びを実感できる振り返り

仮説2

家庭学習の推進やICTの効果的な活用、個別学習の充実等を図ることで、基礎的・基本的事項の内容が子どもたちに定着するだろう。

研究の視点② 基礎・基本事項の定着

- ア 自分で考え、自分で計画する家庭学習の取組
- イ 児童全員に内容定着を図る小テストの実施と個別学習の取組
- ウ レベルアップタイム（学力充実のための取組）
- エ ICTの活用



「東小かぜのこ学習モデル」を支える基盤として
 ○一人一人が認められ、安心できる集団づくりの推進
 学級経営 委員会活動 係・当番活動 朝の会・帰りの会
 縦割班活動 家庭教育 地域連携 コミュニティスクール

○県学調・町学調の結果分析と取組活用

東小かぜのこ学習モデル

学習過程	児童の学びの姿
か	課題をつかみ、見通しを持つぞ 
ぜ	絶対解くぞ、自分の力で 
の	伸びるぞ、みんなで学び合い 
こ	この振り返り、次に生かすぞ 